

円借款とインドの政治経済

—対インド円借款供与 50 年の軌跡—

布目稔生

BRICs の一角として注目を集めるインドだが、1958 年の円借款供与以来、いまだに供与を受けるレシピエントの地位にある。後発の円借款のレシピエントである中国は、2008 年の北京オリンピックの前に新規の円借款の受け取りを停止し、30 年で円借款供与国から「卒業」した。この差はどこから来たのであろうか。

そもそも円借款とは、日本政府が開発途上国に提供する ODA(政府開発援助)の一種で、二国間で行われる円ベースの資金融資である。これは「開発援助」と「外交ツール」の二つの側面に大別でき、中国は典型的な外交ツール型であった。

他方のインドはどうか。上記の 20 年以上の差の理由を検討するのが本稿の目的であるが、それには、対インドの円借款が開発援助なのか外交ツールなのかを見極めなければならない。そのため、本稿では戦後のインド政治経済史の考察も併せて行い、その上で対インド円借款供与を考えてみたい。また、戦後インド政治経済史上、エポック・メイキングな出来事である経済の自由化についても言及する。

以上